

クロモンヒラナガゴミムシ, 兵庫県の記録

森 正人¹⁾

はじめに

今から 60 年近く前に発行された原色日本昆虫図鑑 (上)(保育社, 1955) は, 甲虫だけを扱った当時としては画期的な図鑑で, 著者はゴミムシの大家(故)大倉正文さんが代表の近畿甲虫同好会の面々であり, しかも(故)中根猛彦博士の監修によるもので, 関西に住む甲虫屋さんには身近で大変に嬉しいものだった. 子供の頃の筆者にはバイブルのような存在で, 毎日飽きずに見ていたことを憶えているが, この図鑑でゴミムシにしては妙な形のクロモンヒラナガゴミムシの存在を初めて知った. 図版標本の産地は神奈川県平塚市となっていたが, それは何故か, ゴミムシ図版の最後に掲載されており, 解説には「水辺の枯れた葦の間等に棲息し, 灯火に飛来することもあるが, 極めて稀な種である. 本州では関東平野のみから知られていて, 近畿地方等ではまだ採集されていない。」と記述されていた. 当時住んでいた神戸では, まず出会えないゴミムシだった訳で, 比較的最近までその残念な想いは続いていた. この間, 本種の生態に関する詳しい報告があり, また全国各地からの記録報告も少なからず見られようになった. そして, ここ 10 年ほどの期間でようやく近畿地方, さらに嬉しいことに筆者の地元である兵庫県からも情報が始まったが, まだ正式な記録として公表されていない. この機会に, 近畿地方や兵庫県内における記録や情報を整理して記録し, また, 本種の特殊な生態についても文献情報を含めて報告しておきたい. 文中の種名の「~ゴミムシ」はしばしば省略する.

近畿地方における記録・情報

近畿地方(2府4県)におけるクロモンヒラナガゴミムシの初記録は和歌山県からであろうか(田中, 2005). 採集者でもある田中昭太郎さんの私信では, 採集場所は紀伊半島の内陸部の耕作地環境で, チョウ採集の傍ら棚田の脇に繁茂するススキをスィーピングして偶然得られたようである. 田中さんはゴミムシの研究者なので, 当然その後も当地に行かれたようであるが, 追加個体は得

られていない.

(文献記録) 1ex., 和歌山県西牟婁郡中辺路町石船, 11. VII. 2004, 田中昭太郎採集

和歌山県ではそれ以前にも採集されているが, 正式な記録の公表は昨年になってからである(的場, 2011).

(文献記録) 1ex., 和歌山県有田川町小島, 3. VI. 1989, 的場 績採集

兵庫県についてはこれまで本種の公表記録はないが, いくつかの情報や標本があるので, これらについて記録しておく. まず, 熊代直生さんが採集した神戸市産の標本が手許にある. これはクモの巣にかかった本種の死体が, 山歩き途中の熊代さんの服に偶然付いていたもので, 生息場所の特定が出来ず, 残念ながら再現性に乏しいものだった.

(採集記録) 1 ♀, 神戸市北区藍那, 21. VI. 2002, 熊代直生採集・筆者保管

神戸市レッドデータブック(2010)には本種が「要調査」として掲載されている(データは無し)が, これは熊代さんが採集された上記の個体に基づいている. 神戸のこの産地では, その後, 追加個体と生息環境の把握を目的に調査を行ってきたが, 2011 年になってようやく成果が得られた. これは, ススキやオギ等のピーティングによるもので, 同時に本種の生息環境についての若干の知見も得ることができた.

(採集記録) 2 ♂ 3 ♀, 神戸市北区藍那, 10. X. 2011, 筆者採集・保管

県内では, これ以外に宝塚市内でも採集されており, 未公表であることから採集者の了解を得て記録しておきたい.

¹⁾ Masato MORI 環境科学大阪 株式会社

(採集記録)lex., 宝塚市山本南, 6. IX. 2009, 下野誠之採集・保管

この個体は、昆虫研究者の下野さんが当時住んでいた自宅玄関脇の灯火に張られたクモの巣上で死んでいたものである(また、クモの巣!)。当然のことながら、その後下野さんは自宅周辺を懸命に調査されたが、追加個体は得られていない。

以上が筆者の知り得た近畿地方の記録・情報のすべてである。

クロモンヒラナガゴミムシについて

クロモンヒラナガゴミムシ *Hexagonia insignis* (BATES, 1883) は、熊本県人吉市、水上村湯山温泉(原記載では Hitoyoshi, Yuyama と記述されている)産の標本をもとに新種記載されたもので、日本では本州、四国、九州に分布している。ヒラナガゴミムシ属 *Hexagonia* はオサムシ科のヒラナガゴミムシ亜科 Ctenodactylinae に属し、日本には本種を含めて4種が知られているが、本種以外は南西諸島に分布が限られるような南方系のグループである。

本種の国内の分布記録として、筆者の手許には、茨城、千葉、栃木、埼玉、東京都(伊豆大島)、静岡、神奈川、愛知、三重、広島、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島(南限は屋久島)の各都県の文献等情報があるが、見落としがあるかも知れない。おおむね北関東以西の太平洋岸に沿った比較的温暖な地域に分布する傾向が伺えるが、瀬戸内海沿岸の各県からも記録がある。本州日本海側の府県からの記録は確認できなかった。

本種の生態に関しては松本(2000)の詳しい報告がある。これによると、本種は成虫・幼虫ともに、ススキやオギなどの比較的高い位置の葉鞘間を生息場所としており、地表や植物体の下部で見られることは希である。飛

翔能力はあり、灯火への飛来例もある(クモの巣に掛かることも多い?)が、生息場所としての葉鞘間への依存度はかなり高いとされている。餌としては、同じ場所に生息するキビクビレアブラムシやウンカ類やヨコバイ類、アワフキムシ類などの幼虫、数種のアリ類を好むようである。越冬は成虫態で、石下や土中とされている。

また、本種と同じニッチの種として、ミズギワアトキリゴミムシ *Demetrius marginicollis* についても詳しい生態が記述されているが、この種も同じくススキなどの葉鞘間に生息するものの依存度は低く、植物体下部や地面の腐植層でも活発に活動している。ミズギワアトキリは兵庫県内には広く生息し、各所でその愛らしい姿を見ることが出来る。上記の神戸市におけるクロモンヒラナガの生息地では、ある状態のススキやオギなどをビートイングするとたくさんのミズギワアトキリとその他雑多な小昆虫(アブラムシ類やアザミウマ、各種カメムシ目幼虫、ケアリ類等々)、小型のムカデ類、ウスカワマイマイなどが落下し、それらに混じってクロモンヒラナガが落ちることが多かった。ある状態とは、ススキやオギだけではなく、セイタカアワダチソウやササ類など複数の周囲の植物とクズの蔓が絡み合い、複雑な植物体の「かたまり」のようになった状態で、棲み心地の良い空間に思えた(写真1)。このような植物の状態と、その中に多くの小昆虫・小動物が混在する空間こそが、本種の生息に適した環境であり、本種を発見するための有効なヒントでもあった。

個体変異について

クロモンヒラナガゴミムシの名前の由来となっている翅端部の黒紋は、個体または地域による変異の傾向が認められることは松本(2000)も述べている。黒紋が翅端に達する「クロモンタイプ」と翅端から離れる「ヒト



写真1 各種の植物体が複雑に絡み合った状態。



写真2 クロモンヒラナガゴミムシ
左：兵庫県神戸市産，右：茨城県取手市産。

ツメタイプ」にわけると、南になるほどヒトツメタイプが占める割合が多いようで、茨城県古河市産ではクロモンタイプ：ヒトツメタイプ=51：7、佐賀県産では0：9、屋久島産の個体では0：96と報告されている。筆者の手許の標本を調べてみると、神戸産では5個体すべてがヒトツメタイプ(0：5)であり、茨城県の古巻進さんから頂いた取手市利根川産では103：21となり、上記の古河市産と似た比率であった。わかりやすい顕著な地域変異として認められる。なお、南西諸島にはヒトツメヒラナガゴミムシ *Hexagonia cyclops* MATSUMURA, 1910 が分布しているが、これは本種とは別の種類である。

おわりに

クロモンヒラナガゴミムシを兵庫県から初めて記録した。本種が得られた神戸市藍那から山の街にかけての一带は、昔は昆虫の宝庫と言われた地域で、筆者の子供の頃はまだオオムラサキが多産し、兵庫県では絶滅種として扱われているマダラシマゲンゴロウが生息するような場所であった。山の街周辺は既に住宅地として開発が進んで久しいが、藍那地域にはまだ良好な里山環境の場所もあり、本種の生息も維持されてきたんだろう。最近まで発見されなかった理由として、本種の特殊な生態(葉鞘間への依存度が高い)に起因するところが大きいと思われるが、開発によって発見しやすくなった可能性も否定できない。また、全国的な分布傾向からみると、兵庫県は分布が希薄で局所的な場所に位置しているように思われ、実際に神戸市から姫路市あたりまでの沿岸部の類似環境で調査をしても、なかなか成果があがらないが、もちろん調査不足であることも否めない。これを機会に、分布調査が進むことを願いたい。

最後に、情報やサンプル提供等でご協力を頂いた田中昭太郎さん(和歌山県白浜町)、熊代直生さん(大阪府豊中市)、下野誠之さん(山口県岩国市)、古巻進さん(茨城県取手市)に厚くお礼を申し上げる。

参考文献

- 青崎幸夫, 2010. 沢原高原での石起こし・ススキピーティ
ング採集, SATSUMA, 60: 144.
- 千葉県生物学会, 1999. 千葉県動物誌.
- 神奈川県昆虫談話会, 2004. 神奈川県昆虫誌 II.
- 笠原須磨生・西山明, 1990. 茨城県の歩行虫. るりぼし,
(15).
- 近畿甲虫同好会, 1955. 原色日本昆虫図鑑(上). 保育社.
- 国土交通省, 2004. 安倍川水系の流域及び河川の概要.
神戸市, 2010. 神戸の希少な野生動植物 神戸版レッド

- データブック 2010.
- 城戸克弥・小田正明, 2005. 鹿児島県稲尾岳山麓で採
集した甲虫類 I. KORASANA, (73).
- 的場績, 2011. 和歌山県産甲虫類分布資料
24. KINOKUNI, (79).
- 松本慶一, 2000. ススキ属植物の葉鞘間に見られるオ
サムシ科甲虫4種の生活史に関する研究. 東京都高
尾自然科学博物館研究報告, (19).
- 松田勝毅・中尾進治, 1970. 障子岳と深倉峡の鞘翅目
目録追補. 北九州の昆虫, 16(1/2).
- 三重昆虫同好会, 2011. 志摩半島の昆虫.
比婆科学教育振興会編集, 1997. 広島県昆虫誌 I.
- 西田光康, 2010. 大野原高原周辺の甲虫. 佐賀の昆虫, (45).
- 佐藤正昭, 2007. 四国で採集した甲虫(1). へりぐろ, (28).
- 埼玉昆虫談話会, 1998. 埼玉県昆虫誌 III.
- 高倉康男, 1989. 福岡県の甲虫相.
- 田中蕃ほか, 1998. 矢作川河岸平成記念橋～高橋間の
昆虫. 矢作川研究, (2).
- 田中昭太郎, 2005. 和歌山県におけるクロモンヒラナ
ガゴミムシの記録. 月刊むし, 412
- 栃木県, 2003. 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫
II.
- 山口県立山口博物館, 1988. 山口県の昆虫.
- 山脇好之, 1983. 飯塚市内の灯火のある橋に飛来した
ゴミムシ2種. 北九州の昆虫, 30 (3).
- 吉田正隆, 1980. 池田町の甲虫類. 郷土研究発表会紀要,
(26).